

# 千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1  
公益社団法人千葉県園芸協会  
連絡先 043(223)3005  
発行日 毎月1日  
平成30年2月号

## 千葉県での業務・加工向けタマネギ産地の育成への取組

全国農業協同組合連合会 千葉県本部  
営農支援部 営農支援課 営農技術センター ト部 晃一

タマネギは、男女ともに好きな野菜として上位に入り、年間を通じて需要も高い品目ですが、時期によっては国産タマネギの供給が不足しています。一方で、その需要もライフスタイルの変化により業務・加工向けおよび国産需要が高まっています。そのような中、県内でのタマネギ新産地育成に向けた取組が行われています。

### 1 取組の経緯

千葉県のタマネギ作付面積は、昭和60年に約430haの規模でしたが、平成15年には202ha、平成28年には185haに減少しています。主な要因としては、生産者の高齢化による耕作面積の減少および収穫作業の重労働や労働力確保不足などがあげられます。一方で、輸入されるタマネギは、2010年以降30万t以上で推移し、販売額も140億円を超えており、タマネギのニーズは高まっています。

このようななか、タマネギ作付面積拡大や労働力配分の平準化、さらには遊休農地の活用を目的に、新たな産地育成に取り組んでいます。

### 2 キーワードは「7月～8月出荷」と「業務・加工用」

タマネギは年間を通じて出荷されていますが、特に端境期となる6月～8月の出荷が少ない傾向です。なかでも業務・加工用需要の割合は増加傾向となっているため、この期間に安定した出荷が課題となっています。そこで、千葉県農林水産部担い手支援課・千葉県農林総合研究センター東総野菜研究室・印旛農業事務所・夷隅農業事務所など関係機関と連携し、この時期に出荷が可能となる作型・品種を産地に提案したところ、JA富里市およびJAいすみにて平成28年より取り組むこととなりました。

### 3 作型と品種

作型については、10月上中旬に播種し、無加温ハウスにて育苗したのち、11月下旬～12月上旬に定植、5月～6月上旬に収穫後、7月～8月まで乾燥・貯蔵するものです。

ポイントは、無加温ハウスによる育苗と収穫後1か月～1か月半の乾燥貯蔵を行なうことです。

千葉県の慣行栽培では、地床育苗としていますが、無加温ハウスで行なうことで、苗生産を委託することが可能となります。そこで、県内育苗業者に苗生産を委託しました。収穫時期については、6月上旬以降は梅雨時期となるため、腐敗などが問題となり、収穫量が著しく減少します。



そのため、梅雨入り前までに収穫し、屋内にて乾燥・貯蔵を行なうことで、安定した収穫が可能となります。

また、品種は、加工・業務用で求められる品質・規格として、①大玉(Lないし2L以上)②加熱用途向け品種(水分含有率の低いもの)を基準に品種選定を行ないました。

### 4 取組産地について

平成28年作では、2JA6名10a規模で試作しました。その結果、各ほ場ともに5t/10a以上の収量となり、出荷規格別の比率では、L・2Lが70%～80%と全体的に大玉のタマネギが収穫できました。

また、収穫したタマネギを加熱調理して食べた生産者からは「食味が良い」との評価もいただきました。



ほ場での生育状況



乾燥後、生産者総出で出荷作業を実施



収穫調査したタマネギ (JA富里市)



収穫調査したタマネギ (JAいすみ)

### 5 今後の取組

平成29年は、2JAの作付面積は60aに拡大し、作業の機械化も進めています。

今後の目標として、生産者数の増加および面積の拡大・栽培出荷体系の確立による10aあたりの出荷量やL・2L比率の向上、販売先の確保を行ない生産者所得の向上への取組を行ないます。



半自動移植機による移植作業

## 「伝統×革新」 第一花きのスマゼリについて

株式会社第一花き 総務部  
広報花育課長 松永 仁美

「スマゼリ」とは、伝統的なせり方式を残しながら、北足立市場の更なる活性化とお客様の利便性向上を意図して導入した新たな仕組みです。手ぜりの機能を改めて考え、相場を支える市場機能を強化するためにパーソナル情報システムを開発し、2017年6月5日に運用開始しました。

### 1 開発背景

様々な業種で、AI 技術の導入や機械化、ロボット化が進む昨今ですが、私たちの扱う生花について、「どこまでの機械化が必要なのだろう」「生鮮品の中でも、特に国産の花の少量多品種生産、この価値を失うことなく、流通を支えるためにはどうすればよいのだろう」、そんな議論を重ねる中で、弊社が導入している「手ぜり」が無意識に有する素晴らしい機能に気づくことができました。

「手ぜり」という守るべき伝統、それは我々、市場が生産振興のために

- ・ 本物のせり職人による手ぜりと、せり前の情報取引をバランス良く行うこと
  - ・ 情報取引が発展しても、花の品質を無視した価格の独り歩きをさせないこと
  - ・ 花の目利きができる卸売会社として、品質に即した価格形成を徹底すること
- という大切な機能を維持するために必要だと結論づけました。

一方で、生産者様と買参人様を繋ぐ流通拠点としての機能を強化することも求められ、花の鮮度保持、小売店の効率的な経営、そのための仕入業務軽減のためには、一部業務の機械化・データ化は必須です。

そこで、伝統を守りつつ、革新的技術で、相場を維持しつつ、買参人の利便性を向上することを目指し、いわゆる「機械ぜり」ではない「手ぜりの在宅ぜり」の開発に着手しました。

### 2 機能

- ・ インターネットを通じてタブレットや PC で第一花き本社の「手ぜり」に参加可能
- ・ 「手ぜり」に躊躇する若手、女性買参人でもせり参加への心理的障壁軽減
- ・ せり場とスマゼリ、双方の応札情報をせり人が確認し、落札が確定される



↑ 入札情報がせり人専用画面へ反映

### 3 今後の展開

2017年3月公表の日本花き卸売市場協会の調査データによると、会員125市場のうち、7割を超える89市場が手ぜりで取引を行っており、これらの市場の取扱高平均は16億2千万円です。事業利益を委託手数料に頼る市場にとって、この取扱高で得られる利益の中でシステムを開発するのは容易ではありません。第一花きがチャレンジしたこの成果物を広く地方市場にも活用いただくことができれば、業界全体の活性化に寄与できるものと考えています。全国の市場でせりが活況となり、適正価格での取引が維持できるよう、様々なチャレンジに取り組み続けたいと思います。

そして、より良い機能と体制で、生産者様からお預かりした花を、しっかり販売して参ります。

# 平成29年度「ちばが旬！販売促進月間」について

流通販売課 販売・輸出促進室  
副主査 平田 瑛子

千葉県は全国屈指の農林水産県であり、多種多様で豊富な食材に恵まれた「食の宝庫」です。本県産農林水産物の販売促進を図るためには、販路を開拓するとともに、千葉の魅力を県内外の消費者に伝え知ってもらうことが重要と考えています。

## 1 【「ちばが旬！販売促進月間」について】

県では県産農林水産物が豊富に出回る6月、9月、11月、2月を「ちばが旬！販売促進月間」と位置づけ、首都圏の量販店や百貨店などで、販売促進を目的としたプロモーション活動を実施しています。

## 2 【6月の活動】

県内外の量販店・百貨店203店舗で、旬の農林水産物をPRする千葉県フェアを実施しました。特にイオンモール八千代緑が丘では森田知事のトップセールスを行い、旬のスイカ・メロンや銚子漁港直送のキンメダイ、南房総のヒマワリに加え、親交の深いタイ王国の文化や果物についても紹介したほか、タイ王国と千葉県の食材コラボメニューレシピコンテストを初めて開催し、大々的にPRしました。



「森田知事と駐日タイ大使による、千葉とタイ王国の農林水産物のPRの様子」

## 3 【9月の活動】

県内外の量販店・百貨店43店舗で旬の農林水産物をPRする千葉県フェアを実施しました。また、県産食材を年間通じて取り扱い、積極的にその魅力を発信している飲食店を登録する「シェフズ・ちば」の登録店の協力の下、『ボナペチバ〜とおきのひと皿フェア〜』を初めて開催し、シェフが腕を振るった料理を通じて、イセエビやチバザポーク、旬の野菜などの多彩な食材の魅力をPRしました。

## 4 【11月の活動】

来年秋にデビュー予定の落花生新品種をPRするため、11回目となる『ちばの直売所フェア2017』の落花生キャラバン隊にて落花生新品種の愛称募集や試食をしたほか、様々なイベントで愛称募集の応募用紙の配付や落花生新品種の展示を実施しました。

## 5 【2月の活動】

量販店・百貨店で千葉県フェアにて農林水産物をPRしていくほか、県産のいちごを存分に楽しんでいただくため、県内の65箇所のいちご園と87店舗の飲食店及び菓子店が参加する『ちば♡いちごフェア2018』や、野生鳥獣対策の一環として県内外の様々なジャンルの飲食店が、県内で捕獲されたイノシシやシカの肉を使った料理を提供する『房総ジビエフェア2018冬』を開催しています。この機会に、是非御賞味ください！

『ちば♡いちごフェア2018』ポスター(左)



『房総ジビエフェア2018冬』はこのぼりが目印になります(右)

頑張る産地



## ブルーベリーを核とした地域活性化の取組

君津農業事務所 改良普及課  
主任上席普及指導員 本居 聡子

木更津市観光ブルーベリー園協議会は、地域の活性化に目覚ましい活躍をしており、平成 28 年度「豊かなむらづくり全国表彰事業」で農林水産大臣賞を受賞、平成 29 年には「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」の 31 地区の一つに選定されています。今回その活動状況を紹介いたします。

### 1 木更津市観光ブルーベリー園協議会

木更津市富来田地区のブルーベリーは、現在 2 つの生産者組織（木更津市観光ブルーベリー園協議会・木更津市農協ブルーベリー部会）があり、30 年を超える歴史の中で発展してきました。

このうち、木更津市観光ブルーベリー園協議会（10 園、8.7ha）は、ラビットアイ系ブルーベリーによる観光農業を行う生産者の組織として、平成 19 年に設立されました。

「会員が協働することで各園の経営を発展させ、かつ活動の中で富来田地区の里山再生等による地域活性化に取り組む」ことをモットーに、地域と連携しながら、里山景観の再生活動や JR 久留里線活性化プロジェクト等に取り組んでいます。

### 2 経営多角化と GAP 導入にチャレンジ

同地区に道の駅が平成 29 年秋に建設されることとなり、農産加工品を含めた販路拡大が期待されるとともに、情報発信機能を活用した観光園の集客力向上等のビジネスチャンスが生まれました。

そこでこの機会を捉え、更なる発展を目指し、①各園が特色を生かした「経営の多角化」を拡大し、②お客様に安心安全を提供するため、GAP\*（農業生産工程管理）の考え方を経営に導入することを決定しました。会員の一部は農業事務所が主催する 2 年間カリキュラムの「起業家育成セミナー」に参加して加工品開発に取り組み、また、全会員が「ちば GAP」テスト産地に応募しました。

（\*GAP：Good Agricultural Practice の略、  
農業生産工程管理のこと）

### 3 経営多角化推進とちば GAP 導入の結果

経営多角化の一環として各園が冷凍果実やジャム等の製造に取り組み、収益性を高めました。道の駅にはブルーベリー加工品販売ブースや専用冷凍庫が設置され、ブルーベリーを消費者に年間通して届けられるようになりました。また、4 園が観光園にカフェを併設し、「地域に人を呼び込む農業」に臨んでいます。

また、「ちば GAP」テスト産地に取り組んだ結果、協議会統一の「収穫出荷マニュアル」、「栽培マニュアル」が作成され、8 園が「ちば GAP」認証を取得する予定です。

さらに、案内板の設置や施設の安全対策など各園の整備も進み、新たに 0.3ha の新植が行われ、今後も 1 園の新設が予定されています。

### 4 今後の取組

木更津市観光ブルーベリー園協議会では、ちば GAP 導入を海外からの顧客誘致等に生かすとともに、周年的に「地域に人を呼び込む観光農業」を進めることで、個々の経営の収益性を高めるとともに地域活性化を進めようとしています。

高齢化が進み地域に耕作放棄地が増大するなか、中間管理事業を活用した観光園の拡大と景観再生にも力を入れており、今後の会の活動が大きく期待されます。



観光ブルーベリー園が経営するカフェ



## 水田排水対策による園芸品目生産拡大への取組

担い手支援課 専門普及指導室  
主任上席普及指導員 澁谷 圭子

水田裏作野菜を安定生産する上では場の排水対策は重要です。本暗きよの排水効率を上げる補助暗きよの施工技術の一つに穿孔暗きよ機が開発され、その一つ「カットドレーン mini」の実演・実証ほの取組が千葉県内各地で行われています。

### 1 はじめに

水稻経営の安定を図るため、千葉県内各地で稲作後の水田を利用したブロッコリーやレタス、ナバナなどの野菜生産が行われています。こうした水田裏作野菜を安定生産する上で重要なことは、ほ場の排水対策です。

明きよ排水、暗きよ排水、高うね栽培といった対策がとられていますが、最近では穿孔暗きよ機「カットドレーン」など新しい機械が開発され、千葉県内でも新機械の現地実証試験が行われており、この動きを紹介します。



写真：カットドレーン mini

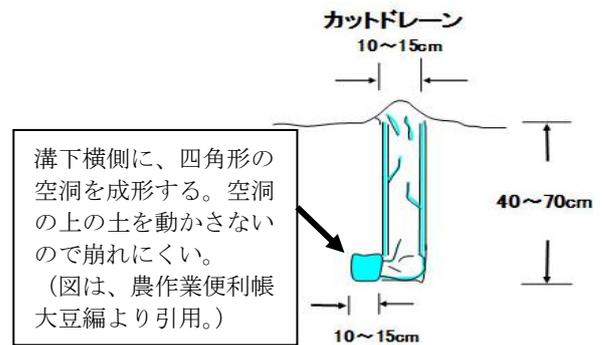
### 2 排水効率を上げる補助暗きよ施工への関心の高まり

ほ場整備で整備した本暗きよに、補助暗きよとして地下に通水できる空洞を施工すると排水効率を高めることができます。新しく開発された穿孔暗きよ機は、トラクターでけん引して、特別に資材を用いることなく、地下に補助暗きよとなる空洞を施工します。この機械はカットドレーンと呼ばれ、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（通称：農研機構）農村工学研究部門と株式会社北海コーキが開発したものです。カットドレーンは 100ps クラスの大型トラクターでけん引し、地下約 70 cm に 12 cm 角ほどの空洞を成形します。この機械の実演会が、

千葉県内では平成 28 年度に印旛地域と夷隅地域で農業事務所主催により開催され、これにより補助暗きよ施工への関心が高まりました。

### 3 新機械の実演・実証ほ活動

平成 29 年度はさらに農研機構の協力を得て、千葉、印旛、香取、長生、夷隅、安房、君津の各農業事務所主催による「カットドレーン mini」の実演・実証ほの設置といった取組へと拡大しました。この機械は先の機械を小型化したもので、40~60ps クラスのトラクターでけん引でき、地下約 50 cm に 8 cm 角ほどの空洞を成形します。技術実証品目はレタス、ブロッコリー、キャベツなどで、また、水稻の乾田直播栽培ほ場や大豆、飼料作物栽培ほ場などでも取り組まれました。排水対策が喫緊の課題であることと、生産者の関心の高さがうかがえました。



図：カットドレーンで施工した通水空洞

### 4 排水対策技術の普及に向けて

カットドレーンを契機とした排水対策技術の実証ほ活動などを通して、補助暗きよの必要性や穿孔暗きよ技術の有効性が理解されました。中にはカットドレーン mini を導入する生産組織も現れました。

今後も、新しい機械の情報収集や地域に合った機械の紹介、県内ほ場での適合性試験などに取り組み、排水対策による水田裏作品目の生産拡大を推進していきます。

## 「世界らん展日本大賞2018」 開催案内

生産振興課園芸振興室

世界各地の様々な蘭を一堂に集めた“世界の蘭の祭典”「世界らん展日本大賞」が本年も下記のとおり開催されます。昨年は、19の国と地域から約3,000種・10万株を超える蘭の花が集まりました。今回は、「蘭の魅力を表現する」というらん展の原点に立ち返り、「楽園・南国・熱帯」が開催テーマとなっています。

日本大賞の審査は、全7部門で行われ、そのうちディスプレイ部門では、フラワーデザイナーや華道家だけでなく、蘭愛好家のグループや学生、生産者が出展し、その技術とセンスで蘭の魅力をいかに引き出せるかを競います。

本県からは、千葉県洋らん生産者組合が出展する予定です。

世界らん展の詳細はホームページで御確認ください。  
(<http://www.jgpweb.com/>)

### 記

- 1 主催：世界らん展日本大賞実行委員会
- 2 会場：東京ドーム（東京都文京区後楽 1-3-61）
- 3 日程：平成30年2月17日（土）～23日（金）
- 4 公開時間：午前9時30分～午後5時30分  
（入場は閉場30分前まで）
- 5 入場料金：前売券 1,900円  
当日券 2,200円



前回奨励賞を受賞した千葉県洋らん生産者組合の  
「輝く蘭 (Shining Orchid)」

## 初開催！ ちば♥いちごフェア2018

流通販売課農業ビジネス推進班

県内いちご産地の振興と地域活性化を図るため、今回初めて、県内の“いちご農園”と県産いちごを使用したスイーツを取り扱う“飲食店・菓子店”が連携してのフェアを開催します。観光客の方々が、いちご狩りといちごスイーツを楽しむことにより、生産者はもとより地域全体へ経済効果が波及することを期待しています。



真っ赤ないちごが目印のリーフレット

### 【ちば♥いちごフェア2018について】

**期間** 2月1日（木）～2月28日（水）

**参加施設** ①いちご農園 65か所

②飲食店・菓子店 87店舗

### フェア概要

フェア参加施設を利用し、レシート又は領収書を専用の応募ハガキに貼付して応募すると、抽選でチーバくんぬいぐるみや、ちばの自慢の特産品をプレゼントします。

応募は1施設分から可能で、2施設分は当選確率が4倍、3施設分は6倍となります。

### ちば♥いちご特設サイト「Strawberry Fields ちば」

フェアの詳細は、こちらを御覧ください。

URL : <http://chiba-ichigo.jp>

